

長

ちょう

善

ぜん

館

かん

学
是

“困っている人を救うために学ぶ”
“学んだことは実践してこそ価値がある”

西の松下村塾、東の長善館と並び称されました

長善館は1833（天保4）年、鈴木文臺によって創設され、文臺、暢軒、柿園、彦獄の4人の先生が約80年間にわたって優秀な人材を教育した越後を代表する私塾です。燕市だけでなく遠方からの門下生もあり、その数は1,000人を超えるとされています。

長善館という名前は、初代館主文臺が中国の古典・礼記に「善を長ず」、つまり、教育は人の善いところを伸ばし、欠点を補って育てることと説かれていることに由来しています。

塾は全寮制で、生活全体を通して人間的な繋がりを深め、ともに暮らす先生や生徒同士が互いに高め合う教育方法をとっていました。



長善館史料館
横山 文一 館長

江戸	1868	明治	1912	大正
漢学	初代館主 鈴木 文臺	日本史	2代目館主 鈴木 暢軒	数学 英語
		教師	鈴木 柿園	3代目館主 鈴木 彦獄



3月14日、ありし日の長善館さながらの講義。着物と袴を身に付けた粟生津小学校3年生は、“長善館の心”を学びました。

良寛の心を受け継ぎ開学した長善館

現代に生きる長善館

COLUMN

惨状を嘆いた良寛

良寛は、信濃川の洪水で苦しむ農民の姿を見て、怒り、嘆いたとされています。良寛が農民たちに寄り添う姿に、文臺は深く影響を受けたに違いありません。

そして、門下生たちにもその思想は引き継がれていったことでしょう。

良寛と初代館主 文臺
長善館を開いた文臺が良寛と出会ったのは、18歳のころ。良寛は文臺が講義する姿を見て感心し、それ以来、交流を深めました。文臺は交流の中で、貧しい人や弱い人を思いやる慈愛の心を良寛から学んだとされています。そして、良寛が亡くなった後、長善館を開学しました。

先進的！長善館の教育

厳しいきまりと特色のある教育方法を持つ長善館では、漢学を中心にリーダーとしての心構えなどを教えていました。

輝かしい門下生の功績

門下生たちは、長善館で得た学びを社会で実践していきます。政治や医学、教育、学問研究など幅広い分野に優れた人材を輩出。その中には、大津分水の建設に向け、長善館の教えのとおり、故郷に住む困っている人々を救うために力を尽くした者もいました。

だが、時代に合わせて日本語や数学、英語も教科として加えていきました。これにより、遠方からも塾生が集まり、一時は門下生が70人を超えるほど隆盛を極めました。



▲動画制作など時代に合わせた方法で学ぶ長善館学習塾。



受け継がれる長善館の心
1833（天保4）年、粟生津村に創設された長善館。多くの優秀な門下生を輩出しました。1912（明治45）年にその幕を閉じましたが、長善館の教えや心は今も受け継がれています。
教育現場では、小中学校で「燕長善タイム」として、朝の時間帯に10分〜15分、基礎学力を高める活動を行っています。また、小学5・6年生の希望者を対象に、リーダーとしての資質を養う「長善館学習塾」を開講しています。
地域活動に目を向けると、地元の粟生津地区協議会では長善館での講義体験など、長善館の心を次世代に引き継ぐ活動を行っています。

COLUMN

英語は高校レベル!?

長善館は、いち早く英語を教科として取り入れるなど、先進的な教育を行っていました。英語の講義で使われていた教科書は、現在の高校レベルに匹敵する内容。数学も教えており、分数の計算から微分積分まで教えていたようです。当時の教科書やノートは長善館史料館内に展示しています。



▲英語の教科書

▼数学の教科書・ノート